富士に生きる―紙のまちの歴史と文化―
富士市立博物館
Fuji Municipal Museum

博物館だより

2015 2.28 65号

リニューアル前 最後の展示会

製紙業を基盤とする工業都市である富士市は、静岡県東部に位置し、富士山・愛鷹山（あしたかやま）の火山活動によって発達した山地や丘陵地、富士川・潤井川（うるいがわ）などの堆積作用によってつくられた平野及び浮島沼（うきしまぬま）・海岸砂丘からなっている。

旧石器時代からこの地方で生活してきた多くの先人達はこの自然に適応し、利用し、きびしく闘うなかで文化や産業を形成してきた。わたしたちは、これらの貴重な文化遺産を収集し、保存展示することによって、郷土の歩みをみつめ文化の向上をはかり、より豊かな生活の創造をめざし、高まりつつある教育文化に対する市民要求にこたえて、ここに郷土博物館を建設する。

はじめに

富士市立博物館は、上記のような目的と使命をもって、昭和56年（1981）に開館し市民の皆様に親しまれてきました。来年4月には35周年を迎えます。長い歳月を経て、耐震性の課題、施設や展示の老朽化などが生じ、平成27年5月から、本館の耐震工事及び展示リニューアル工事のため一時休館することになりました。

休館前のラストを飾る本展示会は、富士市立博物館の美術、考古、民俗、歴史、紙の各分野からなる多様な収蔵品を展示するとともに、リニューアル後の博物館についてパネルで御紹介します。しばしのお別れとなる博物館本館の姿を見納めていただくとともに、新生博物館に期待を寄せていただければ幸いです。

本展示会のパンフレットを手にとって
リニューアル後の博物館に御期待ください‼

Ⅰ．富士市立博物館の誕生

富士市立博物館建設案が出されたのは、昭和46年（1971）です。同49年、富士市文化財審議会（当時）より「富士市博物館建設について」として、名称は郷土博物館、性格は人文博物館、延建坪1,500～1,800㎡、広見公園の一画が適地との答申が出されました。

オイルショックによる財政事情から、建設は一時延期されましたが、市民の強い要望により、郷土博物館建設は本格的にスタートします。この頃、郷土博物館建築運営研究委員会（鈴木富男委員長）により展示計画が検討され、郷土博物館の大テーマが「富士に生きる－紙のまちの歴史と文化－」に決定します。

昭和54年の富士市文化財審議会において、名称を「富士市立博物館」とするよう要望が出され、翌55年３月、博物館建築工事が竣工します（1,934㎡）。同４月に博物館準備室を設置、室長以下職員３名が配置されるとともに、常設展示工事に入り、12月には「富士市立博物館条例」が制定されました。

展示工事と同時に屋外施設の樋代官長屋門と原泉舎の移築復原工事が行われ、昭和56年３月に竣工します。移築復元されたこれらの建物は総称して富士市立歴史民俗資料館と名づけられました。

そしていよいよ昭和56年４月25日、博物館開館式が挙行され、一般公開されます。現在の博物館の展示はこの時のものがベースになっています。

Ⅱ．広見公園内屋外施設の充実

オープン翌年の昭和57年（1982）３月には、本館西側の広見公園内に旧松永家住宅が復原され、その後、昭和58年に横沢古墳、59年に眺峰館、60年に東平遺跡高床倉庫、62年に東平遺跡竪穴住居、63年に万葉歌碑「東歌」、平成元年（1989）に杉浦医院、３年に樋代官植松家住宅・旧独楽荘石倉が移築復原され、整備されていきます。

開館式典後の常設展示お披露目

その後、平成12年、樋代官植松家住宅・長屋門・旧松永家住宅・原泉舎・杉浦医院・眺峰館の計６棟が、富士市指定有形文化財（建造物）となりました。また、平成20年に旧稲垣家住宅が移築復原され、翌21年には静岡県指定有形文化財(建造物)となり、園内の指定建造物は県指定・市指定あわせて７棟で県内屈指の民家園になりました。

充実した公園内の屋外施設でしたが、残念なことに平成21年、東平遺跡竪穴住居にて失火事故が発生し、茅葺屋根等が焼失してしまいます。これを教訓に屋外展示監視カメラが設置され、翌年には火災復旧工事が完了しました。

屋外施設のうち特に旧稲垣家住宅は、囲炉裏やカマドを利用した体験事業やコンサートが催され、好評を博しています。

Ⅲ.施設の拡充と展示替、そしてリニューアルへ

昭和57年(1982)９月、登録博物館(登録番号第15号)となり、開館３年後の59年には、早くも入館者10万人を達成しました。

昭和62年３月、博物館工芸棟（248.43㎡）が竣工し、陶芸や染色などの体験施設が整います。開館５年目の62年には常設展示の展示替えを行い、平成４年（1992）には第２展示室（紙の展示室）を展示替えしています。

平成６年、民俗分野の展示を行う歴史民俗資料館(博物館分館）が開館し、９年には歴史民俗資料館収蔵庫が新築され収蔵スペースが拡充しました。

平成８年には施設全体の利用者数が50万人に達しますが、その後も本館や歴史民俗資料館の展示室は小規模な展示替えを実施し、平成16年、歴史民俗資料館に郷土資料室が設置され、19年には施設全体の利用者数が100万人に達します。さらに22年には、歴史民俗資料館内に常設展示「戦争とくらし」が新設されました。

一方、平成20年の旧富士川町との合併により、岩淵地区にある３施設が博物館管理となりました。富士川地方歴史民俗資料館は富士市立富士川民俗資料館として博物館分館、郷土資料館は博物館収蔵庫として活用しています。またあわせて、国登録有形文化財旧小休本陣常盤家住宅も博物館管理施設となりました。なお、富士川民俗資料館は旧稲葉家住宅という古民家を移築した施設であり、平成22年に富士市指定有形

文化財（建造物）となっています。

そして平成23年、リニューアル基本計画が策定され、本館のリニューアルがスタートしました。26年には展示リニューアル詳細設計と本館耐震補強実施設計が完成し、広見公園側に新しい入口が設けられ、充実した屋外施設群とのつながりが強化されることになりました。27年3月、博物館近接地に新収蔵庫が完成します。5月より本館は一時休館となり、平成28年初夏のリニューアルオープンを目指します。

Ⅳ．富士市立博物館のコレクション

開館以来30年余りの収集活動を経て、富士市立博物館には、約44,000点（平成25年度末現在）の資料が収蔵されています。これらの資料は、本館の大テーマ「富士に生きる」に基づき、富士市及びその周辺地域の歴史を理解する上で必要な資料を、寄贈・購入・寄託等の方法で収集し、美術工芸・考古・民俗・歴史・紙の分野ごとに整理した上で収蔵庫に保管しています。

それぞれの分野の収蔵目的とその内容を見ていくと、美術工芸分野では、富士山や東海道、富士川合戦、富士の巻狩と曽我兄弟など、郷土の歴史にかかわりのある美術工芸品をはじめ、郷土ゆかりの作家の作品を収蔵しています。収蔵品には葛飾北斎、歌川広重らの浮世絵や、白隠慧鶴、鈴木香峰、庵原三山（山梨鶴山・神戸麗山・柴田泰山）、井上恒也等の作品があります。

考古分野は、昭和40年代以降、東名高速道路等の各種建設工事・工場誘致により、埋蔵文化財の発掘調査が盛んに行われた際に出土した集落跡・古墳等の資料を数多く収蔵しています。天間沢遺跡（縄文土器、石器）、三新田遺跡（土師器、須恵器、灰釉陶器）、東平遺跡（土師器、須恵器、鉄器）、東坂古墳（内行花文鏡、四獣鏡、石製腕飾類等）、谷津原1号墳（須恵器、大刀、砥石、装身具）などが一例です。これらの資料は、教育委員会による発掘調査と詳細な報告書の刊行を経て、博物館に収蔵されています。

民俗分野では、昭和40年代頃より高度成長期に伴う生活様式の変化による伝統家屋の改廃が増え、多くの民俗資料が破棄される状況の中で、保存の機運が高まったことから、稲作・畑作の農耕用具、漁具及び漁船等の資料、鍛冶・炭焼・山林等諸職人の資料、衣食住の生活道具等を幅広く収集してきました。このうち、浮島沼周辺の農耕生産用具33種152点が、平成2年、静岡県指定有形民俗文化財となっています。

歴史分野では、東海道関係の古文書や、かつて市内に存在した村々の古文書（地方文書）、富士山に関係する資料を中心に収蔵しており、脇本陣野口家文書、脇本陣鈴木家文書、富士山登山案内絵図、富士山古写真等があります。古文書については現在調査と整理を進めている六所家旧蔵資料群のように、数万点の資料を調査の上、目録化することがあり、収集から整理保管まで数年間に及ぶものも少なくありません。

紙分野では、手すき和紙用具類をはじめ、技術改良の象徴としてのナプキン製造・機械すき製紙の資料等を収集しています。また、紙に関する工芸品の収集にもつとめており、手すき和紙の用具、原料（楮、三椏）、製紙機械、紙工芸品（ダルマ、凧、紙人形他）等を収蔵しています。

Ⅴ．展示資料紹介

今回の展示会では、これら分野ごとの収蔵品から、「富士市立博物館の30年の歩み」を象徴するような資料を抜粋して紹介します。

①美術工芸分野

美術工芸分野では、資料保護のため、下記のとおり展示の入れ替えを行います。

Ⅰ期：２／14（土）～３／８（日）

【郷土ゆかりの作家作品】

白隠慧鶴、鈴木香峰、山梨鶴山、神戸麗山、柴田泰山、徳岡神泉

【東海道関係浮世絵】

東海道五十三次之内吉原図（歌川国貞）、東海道五拾三次之内吉原左富士（歌川広重）、吉原蒲原へ二り丗丁（葛飾北斎）ほか

Ⅱ期：３／10（火）～３／29（日）

【富士山が描かれた絵画】

四季加嶋風俗図屏風、田子のうら風景（歌川広重・三代歌川豊国）、歌枕名所尽ほか

Ⅲ期：３／31（火）～４／19（日）

【富士川合戦・富士の巻狩・曽我兄弟関係の浮世絵】

富士川合戦（勝川春亭）、頼朝公富士之御狩図（歌川国芳）、曽我十郎祐成曽我五郎時致（渓斎英泉）ほか

Ⅳ期：４／21（火）～５／17（日）

【東海道関係・竹取物語の浮世絵】

東海道五拾三次之内蒲原夜之雪（歌川広重）、東海道五十三対原竹とり物語（歌川広重）ほか

（高林 晶子）

②考古分野　～道路開発と遺跡発見のあゆみ～

考古分野からは、富士市立博物館が開館した昭和56年（1981）以降に行われた３つの大規模な道路関連開発事業によって発見・調査された遺跡出土品にスポットをあて、そこから明らかになった歴史を紐解きます。

西富士道路

昭和57年（1982）開通の西富士道路建設に伴い、当地域の古代史を語る上では避けて通れない、重要な遺跡が相次いで発見されました。

全長8.5ｍの大型の横穴式石室を有する横沢古墳からは、馬具や武器、豊富な須恵器とともに金銅製鈴を伴う装身具が発掘され、６世紀末頃の当地域では指折りの有力者の古墳であったことが明らかになりました。昭和58年（1983）には墳丘と石室が広見公園内に移築保存され、いつでも見学することができます。

横沢古墳出土　金銅製鈴（古墳時代後期）館蔵

破魔射場遺跡出土　曽利式土器（縄文時代中期）館蔵

矢川上Ｃ遺跡出土　石器（旧石器時代）
静岡県埋蔵文化財センター蔵

また、８～９世紀頃の大集落跡である東平遺跡の発掘も進み、整然と並ぶ倉庫群や密集した竪穴建物跡と共に、多種多様な土器類や鉄製品、小鍛冶関連遺物、祭祀具のほか、律令官人の存在を示唆する腰帯具が発見されたことから、奈良時代に隆盛を誇った古代の役所（富士郡家）関連施設として認識されるに至りました。発見された竪穴建物跡と掘立柱建物跡は、こちらも昭和60～62年より広見公園内にて復原展示しています。

東名高速道路富士川ＳＡ（富士川楽座）

平成12年（2000）の富士川サービスエリアの拡張と道の駅・富士川楽座の建設の際には、縄文・平安時代の大集落跡である破魔射場遺跡や、古墳後期～飛鳥時代に営まれた谷津原古墳群などの遺跡が相次いで発見・調査されました。破魔射場遺跡では縄文時代中期後半から後期前半の土器が多数出土しており、特に装飾豊かで状態の良い曽利式土器（約4,000～4,500年前）の数々は、静岡県内でも屈指の遺物です。

新東名高速道路

平成24年（2012）に開通した新東名高速道路の建設の際も、市域の東部において複数の遺跡が発見されています。なかでも愛鷹山南麓における発掘調査では、富士市内では初となる旧石器時代遺跡の本格的な調査が実施され、富士山の噴火も著しい富士市域でも、12,000年以上前の文化が育まれていたことがはっきりしました。特に船津の矢川上Ｃ遺跡では、愛鷹3c～4a期（約17,000年前）としては最大級の数量を誇るナイフ形石器を主体とした資料群が発見されています。

（藤村 翔）

③民俗分野

民俗分野のうち、人々の生活や暮らしにかかわる資料は、分館である歴史民俗資料館において本館の休館中も引き続き展示させていただく予定です。今回の展示会では、過去の展示会で取り上げた民俗分野の資料の中から厳選して紹介します。

旧稲垣家住宅関係資料

平成20年度に広見公園へと移築復原された旧稲垣家住宅に関係する資料です。稲垣家住宅が文化元年（1804）年に建築されたことを示す棟札や、稲垣家の重要な生業であった養蚕の姿を示す蚕神の掛軸などを

紹介します。あわせて、旧稲垣家住宅の移築復原時に制作された住宅模型も展示します。普段見ることのできない屋根裏の様子も御覧ください。

昭和初期の映像関係資料

今から約 80 年前の富士山周辺地域や富士山の様子を撮影した映像や、映像関連資料を紹介します。クリーニング・デジタル化を経て、現在にいきいきとよみがえった 80 年前の世界をお楽しみください。

富士の天下一品茶関係資料

富士にはかつて、世界で称賛された「天下一品茶」というブランド茶が存在していました。その製法はいつしか失われ、断片的な資料しか残されていませんでした。しかし、ここ数年の茶業関係者の努力により見事復活し、平成 27 年（2015）初夏には皇室へ献上されることとなりました。

今回の展示では、中国の茶商から贈られ、「天下一品茶」の名の由来となった「天下一品茶製所」の扁額や富士の茶に関連する資料を期間限定（3 月 31 日～ 5 月 17 日）で紹介します。

青い目の人形メリー

昭和 2 年（1927）、日米の親交を願ってアメリカから 12,000 体あまりの人形が全国の小学校や幼稚園に贈られました。人形は各地で盛大な歓迎を受けましたが、太平洋戦争によりアメリカは敵国となり、多くの人形は竹やりでつかれたり燃やされたりして失われることとなりました。しかし、その中のごく一部は大切に保管され、平和の大切さを伝える貴重な資料となっています。県内に現存している人形の一つであり、富士川第一幼稚園に贈られ、子どもたちの成長を見守ってきた青い目の人形メリーを是非御覧ください。

（井上 卓哉）

稲垣家住宅棟札 表〈左〉裏〈右〉（文化元年・1804）館蔵

③歴史分野

歴史分野の活動としては、開館以来、市内に残る古文書等の資料調査や整理を行ってきました。この展示会では、平垣村で旗本・日向家の地方代官をしていた松永家と、かつて今泉村にあった寺院・東泉院について残された資料群から、松永家や東泉院の特徴についてわかる資料の一部を紹介します。

松永家関係資料

松永家は、東海道沿いの平垣村（現富士市平垣）に邸宅をかまえ、江戸時代には平垣村等 6 ヶ村を所領する旗本・日向小伝太の地方代官として活躍しました。邸宅内には、その陣屋（小塚陣屋）を構えていました。

明治時代になり、松永家は地方代官ではなくなりましたが、周辺に多くの土地を所有する静岡県内でも有数の大地主となります。また、地主経営の他に小作米の販売や金貸し、養蚕業等も行っていました。さらに、戸長や郡会議員等の公職についており、地元の名士としても活躍した家でもありました。

松永家に関する資料群は現在、「遠藤家旧蔵文書」（富士市立図書館蔵）、「堤家旧蔵文書」（当館蔵）、「松永家文書」（当館蔵）の 3 つに分かれて伝えられています。

これらの資料群の内、館蔵資料から松永邸やその庭が写った古写真、養蚕業を営んでいたことをしめす古文書、松永家で使っていた椀や膳等を御紹介します。

松永家 庭園　館蔵

扁額「天下一品茶製所」（明治 9 年・1876）野村初男氏寄託資料

松永家の邸宅は、昭和に入ってからは旅館として使用され、昭和54年（1979）富士市に寄贈されました。現在は、広見公園内に一部を移築し、いつでもみることができます。

東泉院関係資料（六所家旧蔵資料）

東泉院は、かつて今泉村（現富士市今泉）に存在した真言宗の密教寺院です。江戸時代まで「五社別当」として、下方五社（富知六所浅間神社・滝川神社・今宮浅間神社・入山瀬浅間神社・日吉浅間神社）の管理・運営をしていました。また、領主として周辺の村々（今宮、神戸、一色、中野の全村、今泉、伝法村の一部）を支配していた寺院でもあります。これらの村の石高は、合計で190石あり、豊臣秀吉や江戸幕府から正式に支配を認められた領地（朱印地）でした。

東泉院は、明治初年に廃寺となり、最後の住持・藻雄は、還俗し「六所」姓を名乗ります。その後も六所家は、東泉院跡地に住みつづけました。

平成17年（2005）に六所家の当主から六所邸主屋や土蔵等の建屋および、建屋に残されていた古文書・書画・民具等の資料の寄贈を受けました。現在では、これらの資料の整理・調査を行い、報告書等様々な形でその成果を発表しています。

この展示会では、東泉院と周辺が描かれた絵図や、江戸幕府将軍・徳川家から発給された朱印状の写、将軍の代替わりの際に、朱印状を改めに行くため江戸まで出向いた様子を記した日記等の資料を紹介します。

また、東泉院の跡地は現在公園整備を進めており、平成27年4月には、市民の憩いの場として公開される予定になっています。　（井坂 武男）

④紙分野

手すき和紙

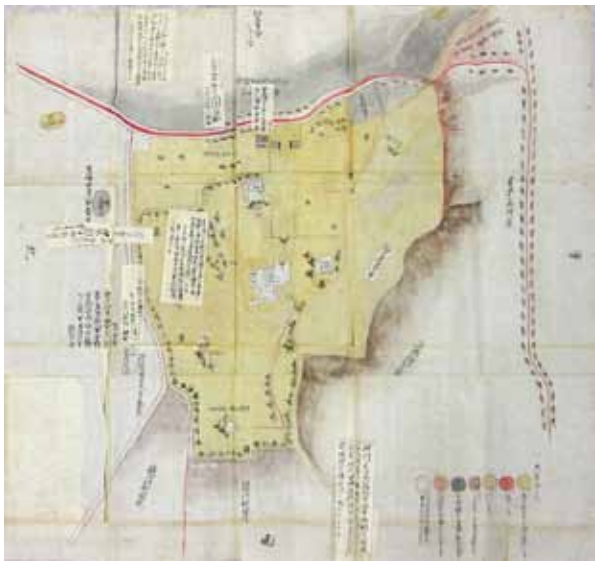
山梨県から静岡県にいたる富士川の流域では、江戸時代の中頃に行われた幕府の殖産興業の奨励と出版事業の増加の中で、「駿河半紙」と呼ばれる、“手すき”による和紙作りが盛んに行われるようになりました。

富士川の西岸に位置し、富士宮市芝川に隣接する北松野の集落も「駿河半紙」の産地の一つであり、明治時代末期には100軒近くが職人を雇い、相当な規模で和紙作りが行われていました。北松野における和紙作りは、大正時代初期から徐々に衰退し、昭和末期にはほとんど行われなくなってしまいますが、最後まで和紙を作り続けていた石川文夫氏（大正13年生まれ）から寄託していただいている、北松野で和紙作りに携わっていた人々が組織していた蔡倫講と呼ばれる職人集団にかかわる資料を御紹介します。　（井上 卓哉）

近代製紙

明治23年（1890）に東京の富士製紙会社が富士市入山瀬に進出したことを契機として、富士市内には機械すき和紙の町工場が多数誕生し、それらは現代へと続く「紙のまち・富士」の土台となっていきます。

そのような町工場を営んだ一人である吉原の佐野熊次郎は、当時技術的に最先端であった地元の原田製紙会社が製作したナプキン原紙を利用しながら、独自の印刷機を新たに開発し、色鮮やかな紙ナプキンを大量に生産することに成功しました。海外で高く評価され、現代の“富士ブランド”の先駆け的存在ともなった通称“佐野熊ナプキン”の優品を、今回特別に公開します。　（藤村 翔）



元文五年東泉院周辺絵図写　（安永7年・1778）　館蔵

佐野熊ナプキン「富士山と花」（明治～昭和初期頃）　館蔵

富士市立博物館リニューアル構想の紹介（その3）

第１展示室―富士川舟運と渡船―

富士市立博物館本館は、施設の老朽化や収蔵庫不足、耐震強度の不足等、様々な問題をかかえているため平成27年度に本館の耐震とリニューアル工事を実施します。平成27年5月19日から博物館本館は休館になり、約1年後の平成28年初夏には、展示内容を充実させ新しい博物館としてオープンする予定です。

博物館2階にある第1展示室（常設展示室）は、今展示をしている内容をベースに、展示内容を充実させ、解説パネルや壁紙等を新しくする予定です。新たに駿河と甲斐を結ぶ輸送路であった富士川にスポットをあてた「富士川舟運と渡船」コーナーを設置します。他に地震・津波・高潮などの自然災害について紹介する「富士の災害史」コーナーも新しい見どころとなっています。

今回は、「富士川舟運と渡船」のコーナーについて御紹介します。

富士川

富士川は、山梨県と長野県境の南アルプスを源流として、様々な支流と合流し甲府盆地を南下、静岡県に入り駿河湾に注いでいる川です。また、熊本県球磨川、山形県最上川とならんで日本三大急流のひとつに数えられています。

富士川舟運

鉄道や車等がなかった江戸時代は、静岡と山梨の物資は富士川を使って船で運ばれていました。「下げ米、上げ塩」という言葉がしめすように、甲府盆地でとれた年貢米が、富士川下流の岩淵河岸（現富士市岩淵）に運ばれ、岩淵からは、塩が山梨方面（鰍沢・青柳・黒沢河岸）へ運ばれました。その他、下り荷では煙草や寒天等、上げ荷では海草や蜜柑、お茶等が運ばれていました。

舟運のコーナーでは、これらの物資が富士川によって、山梨と静岡間を往来した様子を、レプリカを作成し、実際にさわって学べるような展示（ハンズオン）方法を企画しています。

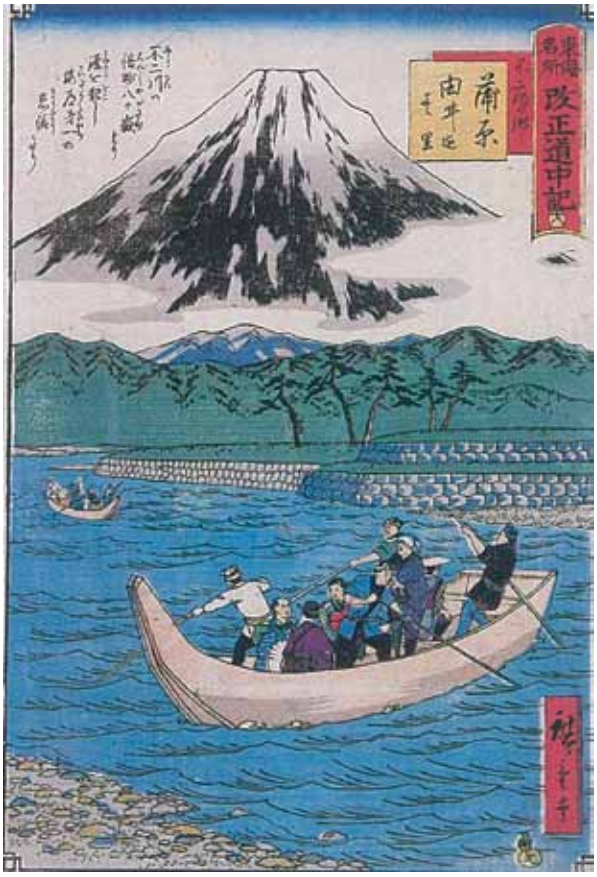
富士川渡船

江戸時代、富士川には橋が架かっていなかったため、人々は「渡し舟」で川を渡っていました。特に岩淵と松岡間では東海道が通っていたため、多くの人が渡し舟を利用したと考えられます。明治時代に木橋が富士川に架けられていましたが、本格的な鉄筋の橋ができたのは大正13年（1924）のことです。鉄筋の橋ができるまで富士川の渡し舟は、旅人や周辺の人々の交通手段として日常的に使われていました。

この渡船の様子を、江戸時代の絵図や古文書、明治から大正期の渡し舟が写っている古写真等から紹介します。

また、舟運と渡船に使われた舟（高瀬船と定渡船）を1/50の模型で復元し、高瀬船に荷物を載せている様子や、渡し舟に乗っている人々の様子を再現します。その模型と映像を組み合わせて、富士川の舟運と渡船の様子を紹介する予定です。　（井坂 武男）

船から甲州米をおろす様子　古絵葉書「富士川より富士遠望」（大正時代）　市川博康氏蔵



渡し舟の様子　「東海名所改正道中記」（明治前期）　館蔵

展示会案内

■　テーマ展　H 27.2/14（土）～5/17（日）
富士市立博物館 30 年の歩みとこれから

子ども向けや一般向け体験講座、イベント

◆　陶芸歳時器
奇数月の（原則）第２土曜日開催。３月は鯉（こい）のぼりを作ります。
日時　３/14（土）　9：30 ～ 11：30
申込　３/ ７（土）　9：00 ～電話または直接来館にて受付
定員　小学生以上一般（小学生は保護者と参加）先着 30 名

◆　陶芸室自由開放日
陶芸中級者以上対象に、自由に作品を作ることができます。原則毎月第２日曜日開催。予約は必要ありません。
日時　３/15（日）　9：30 ～ 16：00
申込　当日、本館にて受付（14：00 迄）
定員　小学生以上一般、中級以上の方（小学生は保護者と参加）　先着 30 名

◆　手すき和紙のランプシェード作り
日時　３/ ８（日）、３/15（日）　※２回連続講座
申込　３/ ６（金）まで、電話または直接来館にて受付
定員　小学生以上一般（小学生低学年は保護者同伴）15 人（多数抽選）

◆　広見さくらまつり参加イベント
広見さくらまつりにあわせて、当日博物館入館無料‼「火おこしグランプリ」他、様々なイベントをおこなう予定です。
日時　３/28（土）　※雨天順延３/29（日）

◆　博物館まつり　５/17（日）
当日博物館入館無料‼各種イベントを予定しています。

◆　博物館の日
毎月第１日曜日開催（12 月は第２日曜、１月はなし）。事前の申込み不要で、さまざまな体験ができます。

◆　チャレンジ！！陶芸
１回目は成形、２回目に絵付けする２回連続講座です。
日時　偶数月の（原則）第２・４土曜日　9：30 ～ 11：30
申込　開催日１週間前（開催月の第１土曜日）9：00 ～電話または直接来館にて受付
定員　小学生以上一般（小学生は保護者と参加）先着 30 名

◆　農家の食と年中行事
旧稲垣家住宅で、１年を通して年中行事を体験する講座です。季節にあわせたさまざまな体験を予定しています。

◆　かまど飯を食べよう !!　６/ ７（日）11：00 ～ 13：00

◆　一閑張り入門　７/10（金）、７/17（金）、７/24（金）
午前の部　9：30 ～ 11：30
午後の部　13：30 ～ 15：30
※ 18 歳以上対象、３回連続で出席できる方

◆　ミニミニはにわ作り　７/20（月・祝）9：00 ～ 12：00

◆　布ぞうり作り体験　７/25（土）9：00 ～ 11：30

◎各講座、イベントともに内容・日時が変更する場合もあります。また、４月以降の講座の募集日時につきましても、博物館 HP やチラシ、広報ふじ等で御確認ください。

ミニミニはにわ作り

富士市立博物館だより　No.65

発行年月日　平成 27 年（2015）２月 28 日
編集・発行　富士市立博物館　**Fuji Municipal Museum**
住所　〒 417-0061　静岡県富士市伝法（でんぽう）66-2　TEL. 0545-21-3380　FAX. 0545-21-3398
HP. http://museum.city.fuji.shizuoka.jp/　E-mail. museum@div.city.fuji.shizuoka.jp
開館時間　４月～ 10 月：9：00 ～ 17：00　11 月～３月：9：00 ～ 16：30
休館日　月曜日（祝日の場合は開館）、祝日の翌日、12/28 ～ 1/5（年末年始）
※本館は５月 19 日（火）から約１年間休館。
入館料　大人 100 円（60 円）　小・中学生 50 円（30 円）※（ ）は 20 名以上の団体料金
※「しずおかミュージアムパスポート」持参者は無料。
歴史民俗資料館（分館）　開館時間・休館日は本館に同じ　入館無料
博物館屋外展示（ふるさと村）　休館日なし 見学無料